

古事記1300年

大須観音展



名古屋名所团扇絵(大須観音) 部分 名古屋市博物館蔵

国宝「古事記」南北朝時代 大須観音宝生院蔵

平成24年12月1日(土)～平成25年1月14日(月・祝)

開館時間：9時30分～17時(入場は16時30分まで)／休館日：12月3日(月)・10日(月)・17日(月)・25日(火)・12月29日～1月3日(年末年始)・1月7日(月)

主催：名古屋市博物館・大須観音宝生院・中日新聞社・日本経済新聞社・テレビ愛知／共催：名古屋大学文学研究科

名古屋市博物館

地下鉄桜通線「桜山」下車、南へ徒歩5分

〒467-0806 名古屋市瑞穂区瑞穂通1-27-1 電話 052(853)2655 / FAX 052(853)3636 / <http://www.museum.city.nagoya.jp>

ドニチエコきっぷ・一日乗車券を利用してご来館の方は 観覧料100円割引！

市バス・地下鉄でのお出かけが便利でお得です。

いま開かれる、奇跡の文庫。

知られざる、古典籍の宝庫。

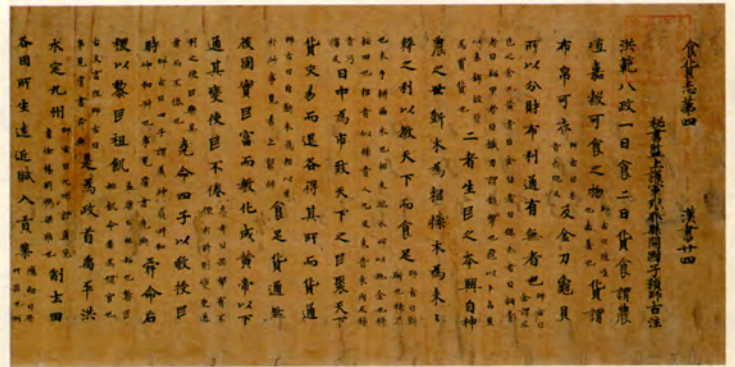
■節分や門前町のにぎわいで多くの市民に親しまれている名古屋市中区の大須観音。この大須観音が国宝『古事記』をはじめとする古典籍の宝庫であることは、意外と知られていないのではないだろうか。■大須観音の所蔵品は、国宝4件、重要文化財37件を含む一万点を超える平安時代から室町時代までの仏書、典籍類があります。この中には日本最古、世界唯一という書物も多く含まれています。■近年の調査では、米西自筆書状の発見など、マスコミをにぎわせる発見がありました。■そして平成24年(2012)は、和銅5年(712)の古事記誕生から1300年、大須観音が木曾三川の中洲から名古屋に移転して400年を迎えます。■この記念すべき年に大須観音が伝える文化財の数々と、街とともに歩んできた歴史を広く紹介します。



『能信画像』(部分) 江戸時代 大須観音宝生院蔵



『覚禅鈔』 平安時代 大須観音宝生院蔵



国宝『漢書食貨志』 奈良~平安時代 大須観音宝生院蔵



明治時代の大須観音 五重塔は明治25年(1892)に焼失



『米西書状』(因名三十三過記紙背) 鎌倉時代 大須観音宝生院蔵

観覧料

一般：1000(800)円/高大生：600(400)円

(内は前売・団体(20名以上)。※中学生以下は無料です)

※前売は11月30日(金)まで販売します。

※名古屋交通局の一日乗車券・トニチエキップを利用してきた場合は当日料金から100円割引。

※各種割引は重複して利用していただくことはできません。

※身体等に障害のある方は手帳の提示により、本人と介護者2人まで当日料金の半額になります。

大須観音を知り尽くす！
関連事業も満載。

講演会

場所：博物館講堂(先着220名・聴講無料)

時間：14時~15時30分(13時30分開場) 13時より

整理券配布

○特別講演会

12月12日(水) 「街に生きる大須観音—その歴史と現在」

岡部快園氏(大須観音宝生院貫主)

○記念講演会

12月2日(日) 「大須観音の資料で禅の見方が変わる」

末木文美士氏(国際日本文化研究センター教授)

12月23日(日) 「里帰りの国宝 『漢書食貨志』の謎」

落合俊典氏(国際仏教大学院大学教授)

シンポジウム「開かれる大須文庫」

12月16日(日)

場所：博物館講堂(先着220名・聴講無料)

時間：13時~16時30分(12時30分開場) 12時より

整理券配布

基調報告：阿部泰郎氏(名古屋大学教授)、稲葉伸道氏(名古屋大学教授)

パネラー：落合俊典氏(国際仏教大学院大学教授)、上川通夫氏(愛知県立大学教授)、米田真理子氏(神戸学院大学准教授)

展示説明会

場所：博物館展示説明室(先着100名・聴講無料)

時間：14時~15時30分(13時30分開場) 13時より

整理券配布

講師：当館学芸員

12月22日(土) 「奇跡の文庫—大須文庫の歴史と文化財」

1月5日(土) 「にぎわいを産む空間—大須観音と門前町の400年」